

ラストワンマイル協同組合 各地で説明会

「分担作業」「400cm対応」「配達遅延なし」で成長

ネット通販向け配送

1都5県に拠点を構える中小運送会社25社がネット通販向けの配送を共同で受託するラストワンマイル協同組合(志村純理事長、東京都府中市)は昨年6月から配送サービスの提供を開始したが、現在、全国で説明会を開催し、組合員拡大を目指している。

も右肩上がりに増えている中、2年ほど前から荷物が届かない物流クライシスが発生。各運送会社は対策に追われ、集荷制限、サイズ・重量制限をしてきたが、最終的には運賃の値上げにつながった。一昨年の4月にヤマト運輸が運賃値上げを発表。同年10月に佐川急便が、昨年3月に日本郵政が発表。そういう中、荷主からの要望を受けて、昨年4月にラストワンマイル協同組合が設立された。

同組合の最大のポイントは、低運賃で出荷できること。荷主と物流作業の工程を分担することで実現。荷主に仕分けをしてもらったり、組合のハブセンター荷物を



関西地区事業説明会風景

企業向け配送運賃表

重量帯	2kg 60#サイズ	5kg 80#サイズ	10kg 100#サイズ	15kg 120#サイズ	20kg 140#サイズ	25kg 160#サイズ	25kg 170#サイズ	25kg 180#サイズ	25kg 190#サイズ	25kg 200#サイズ	25kg 250#サイズ	25kg 300#サイズ	25kg 400#サイズ
プランA	508	629	762	883	1,016	1,149	1,556	1,718	1,975	2,042	3,476	6,257	7,508
プランB	399	494	599	694	798	903	1,348	1,489	1,711	1,769	3,094	5,569	6,683
プランC	290	359	436	505	580	657	856	945	1,086	1,123	1,891	4,349	5,654

い、それによって料金がかかる仕組みにして

プランAは1000個までの荷物のお客さん、Bは1000個以上のお客さん、Cは荷主が配送センター36カ所別に仕分けし、6つのテナに持ち込んでもらうお客さんと、プランを設定している。

志村理事長は、「25社は大手の下請けをしている実運送部隊。ネットワークが面をつなげており、多くのエリアで配達できるようになった。システムは、ヤマトシステム開発のシステムを入れていて、宅急便と同じような仕組みを取り入れていて、現状1日15万件の荷物を配送しているが、ラストワンマイル協同組合の荷物を入れて、一日100万個を取り扱っていきたい」と方針を説明した。

6月に関西地区で7月に中部地区で説明会を開催。2020年に関東・関西地区で集荷した荷物を路線運行して関東・関西地区で配送する計画である。

400cmを超える中型家具、大型家具の荷物は引越業者に任せているケースが多いが、2マンで荷物を運んで欲しいという要望が多く、同組合では2マンによる配送も検討している。

3つ目のポイントは配達遅延がないこと。物流クライシスは荷物が着かないことから始まったが、同組合としては過剰な荷受をしないことで遅延しない、をうたい文句にしている。

プランAは1000個までの荷物のお客さん、Bは1000個以上のお客さん、Cは荷主が配送センター36カ所別に仕分けし、6つのテナに持ち込んでもらうお客さんと、プランを設定している。

志村理事長は、「25社は大手の下請けをしている実運送部隊。ネットワークが面をつなげており、多くのエリアで配達できるようになった。システムは、ヤマトシステム開発のシステムを入れていて、宅急便と同じような仕組みを取り入れていて、現状1日15万件の荷物を配送しているが、ラストワンマイル協同組合の荷物を入れて、一日100万個を取り扱っていきたい」と方針を説明した。

6月に関西地区で7月に中部地区で説明会を開催。2020年に関東・関西地区で集荷した荷物を路線運行して関東・関西地区で配送する計画である。

い、それによって料金がかかる仕組みにして

物であるという。